

## 平成22年度砺波市保育所・幼稚園のあり方懇談会（第2回）会議録（要旨）

- 1 開催日 平成22年6月29日（火）午前9時～正午
- 2 場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 委員出席者 大石委員、太田委員、沖田委員、金子委員、小西委員、澤田委員、四十万委員、高池委員、戸成委員、飛田委員
- 4 市側出席者 白江教育委員会事務局長、大浦教育総務課長、齊藤総務課長  
岡田教育委員会課長保育所長、島田教育委員会課長幼稚園長、  
安地保育幼稚園係長、坪田総務課行政係長、三部総務課行政係主任
- 5 内容
  - (1) 高波幼稚園視察での質疑
    - ㊦ 少人数の幼稚園の場合、卒園して人数の多い小学校に入学すると、子どもが戸惑ったりすることはないか。
    - ㊦ どのような子どもも新しい環境は戸惑う。小規模だからといって問題になることは特になくと思われる。幼保小の連携を行っており、問題行動や集団になじめない等心配がある子どもについての情報交換は行っている。
  - (2) 北部こども園視察での質疑
    - ㊦ こども園は、2歳までの保育園における最長保育時間は、午前7時から午後7時までであるが、3歳からの幼稚園になると最長保育時間が午前8時から午後6時までと2時間短くなる。このことにより他の保育所に移る方はいるのか。
    - ㊦ 保育所では、その家庭の保育事情については十分把握しており、保育時間が短くなることで影響が出るかどうかを事前に把握している。また、保護者には保育時間が短くなることについて、事前に話し合いをする等理解をいただいている。なお、平成21年度には、時間短縮による影響で別の保育所に移られた方は1名であった。
    - ㊦ こども園には多くの職員が働いているが、教諭間等の連絡体制や情報交換はどのように行っているのか。
    - ㊦ 園では午後5時から5時15分まで当番を除いてミーティングを行って情報交換をしている。職員会議は月2回行って全体の情報交換をしている。また、各年齢ごとのミーティングを行う等連絡を密にしている。
  - (3) ちゅうりっぷ保育園視察での質疑
    - ㊦ 休日の預かり保育の状況はいかがか。需要はいかがか。
    - ㊦ 土曜日の預かり需要は多い。日曜日については、要望があるが、できるだ

け家族や祖父母など家庭で見えていただくようお願いしている。現在はいない。

- ㊦ 出町小学校区外の子供がたくさん入園しているが、小学校のと連携や交流はいかがしているか。
- ㊧ 開園してから3年目であり、ようやく来年度終了時を送り出すことになる。本年から出町小学校との交流を行うことにし、連携を図るようにしている。

#### (4) 保育所・幼稚園の需要と課題について

- ① ご意見ご質問の回答等について
- ② 資料の説明

#### <意見等>

- ㊦ 保育所も幼稚園も基本的には保護者の支援であると思う。一般的に子どもの教育についていろいろ言う人がいるが、保護者の保育の要望が基本であり、保護者とうまく付き合っていく必要がある。
- ㊧ 集団に子どもを預けると子どもの言葉遣いが悪くなったりするとの指摘があるが、それは一時的に面白がって使っているだけだと思う。心配しなくてもちゃんと治る。集団でのマイナス面を経験し、それを乗り越えて社会性を身につけるものだと思う。
- ㊨ 小学校では、幼保小の連携充実に力を入れている。入学する子どもで気になることは、言葉遣いであり、治すのに時間がかかる。保育所・幼稚園との連携を充実させ早い段階で指導していきたい。
- ㊩ 保護者は、「保護者は何をしたいのか」と考えるものである。子どもにとって何がいいのかでなく、親が楽になりたいと考える人もいる。どれを優先して何をすればいいのかを考えると難しい。保護者が望むことは何かということはどうやってつかみ、園としてはどう考えているかということはどうやって伝えているのか。
- ㊪ 幼稚園では保護者へのアンケートを取って意見の把握に努めている。子どもの様子や子育ての情報等については園だより等で知ってもらうことが一般的である。相談に応ずることもあるが、家庭問題も絡み困ることもある。

幼稚園や保育所は、保護者に対してへりくだる傾向にあるが、時には強く応対する必要があると考えている。子どもが小さいということは親の経験年数も少ないということであり、いろいろな指導や情報を提供している。
- ㊫ 北部こども園は大規模園で子どもたちがたくさんいて活気があるが、ざわついておりこれでいいのかと考えてしまった。一方、高波幼稚園は人数が少ないので静かだったように感じた。少人数と大人数のバランスが悪く思われ、小規模園に入園してもらうように誘導する必要があると思う。

職員も、北部こども園と高波幼稚園とでは、その業務量がぜんぜん違うと思う。こども園はとても忙しそうにしている、子育ての環境としては大きす

ざるのほうかと思った。

ちゅうりっぷ保育園は今後人数を増やしたいと言っていたが、入園者数を増やせばいいというものではないのではないか。

これらのことから、幼稚園や保育所にはちょうどいい規模というものがあると思う。小さすぎるのも大きすぎるのも、いかがかと思う。それには配置も考える必要がある。

●㊦ 市民の需要を全部聞き入れることは困難だし、本当にそれまで必要なのかとも思う。需要にこたえれば家庭での子育ての時間は少なくなると思う。自分自身、保育所に預けることで安心してしまう。また、先生とコミュニケーションをとることで親育ちもできると感じている。

●㊦ 保護者の需要に応えると、子育て力の低下や生活習慣の低下があるというのはそうなのか。集団で育ったほうが子どもにとってはいいのではないか。

㊦ 保護者の需要に応えると、生活習慣の低下があるというのは、保育所や幼稚園の問題でなく、親が保育所や幼稚園に預けてあるから生活習慣は大丈夫と安心してしまっ、自分でしない場合があるからと思う。

●㊦ 自分の場合、幼稚園に頼ってしまい、親としてのつとめをしないというデメリットに当てはまっているのではないかと他の委員の意見を聞きながら反省している。

子どもが4歳なら親も4歳であるということ、ある先生から聞き感じるころがあった。親としてもしっかり成長する必要があると思う。

●㊦ 高波幼稚園は、自分の子供が通っている園と同じくらいの小規模園である。大規模園を見てその施設や集団生活がいいと思う反面、大規模園は先生が忙しそう、同じ職員の仕事でも業務量に差があると思った。

●㊦ 北部こども園で臨時職員をしていたことがあるが、預かりだけでも60人前後と、とても忙しかったことを覚えている。本日の視察は雨だったため園庭で遊ぶ子供がいなくて室内が過密に感じられたのかもしれない。

●㊦ 子育て支援環境は県下でも砺波市が充実しており、とてもいい環境だと思っている。また、市民の需要についてはばらつきがあるので、すべてに対応することは困難だと思う。

●会長 今回の参施設の視察は、それぞれの特徴があり、対照的であったと思う。皆さんもいろいろな感想を持たれたようである。また、市民の需要に対する提供がうまくかみ合っその効果があると思う。

また、先ほど委員の意見の中に規模と配置についての意見があったが、次回はこの点について議論したいと思う。この懇談会は、特定の方向性や答えを出さなければならないものではないので、自由に意見を取り交わしたいと思う。

(5) 次回 7月下旬とし、事前に案内することとする。